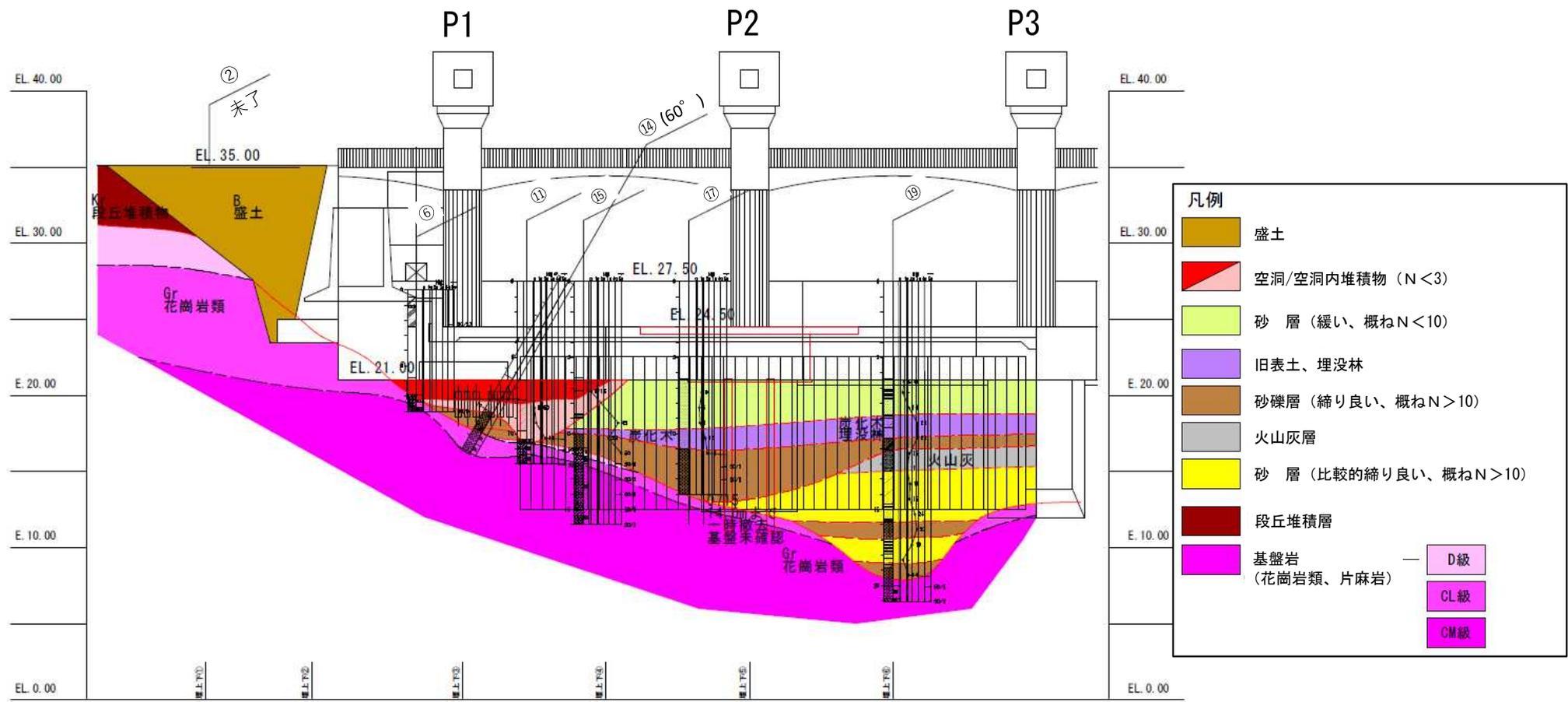


# 左岸部の主な調査の結果概要

---

# 地質断面図（堰軸方向③）

○空洞内で確認された堆積物（N値3未満）は、流水によって空洞化した水みちに堆積した土砂と推測。  
 ○P1-P3間の固定堰コンクリート下部に、厚さ2～3m程度、N値3～10相当の砂層が分布。  
 ○P1堰柱下部の空洞及び空洞内で確認された堆積物（N値3未満）は、砂層がパイピングの流水により流され、生じたものと想定される。

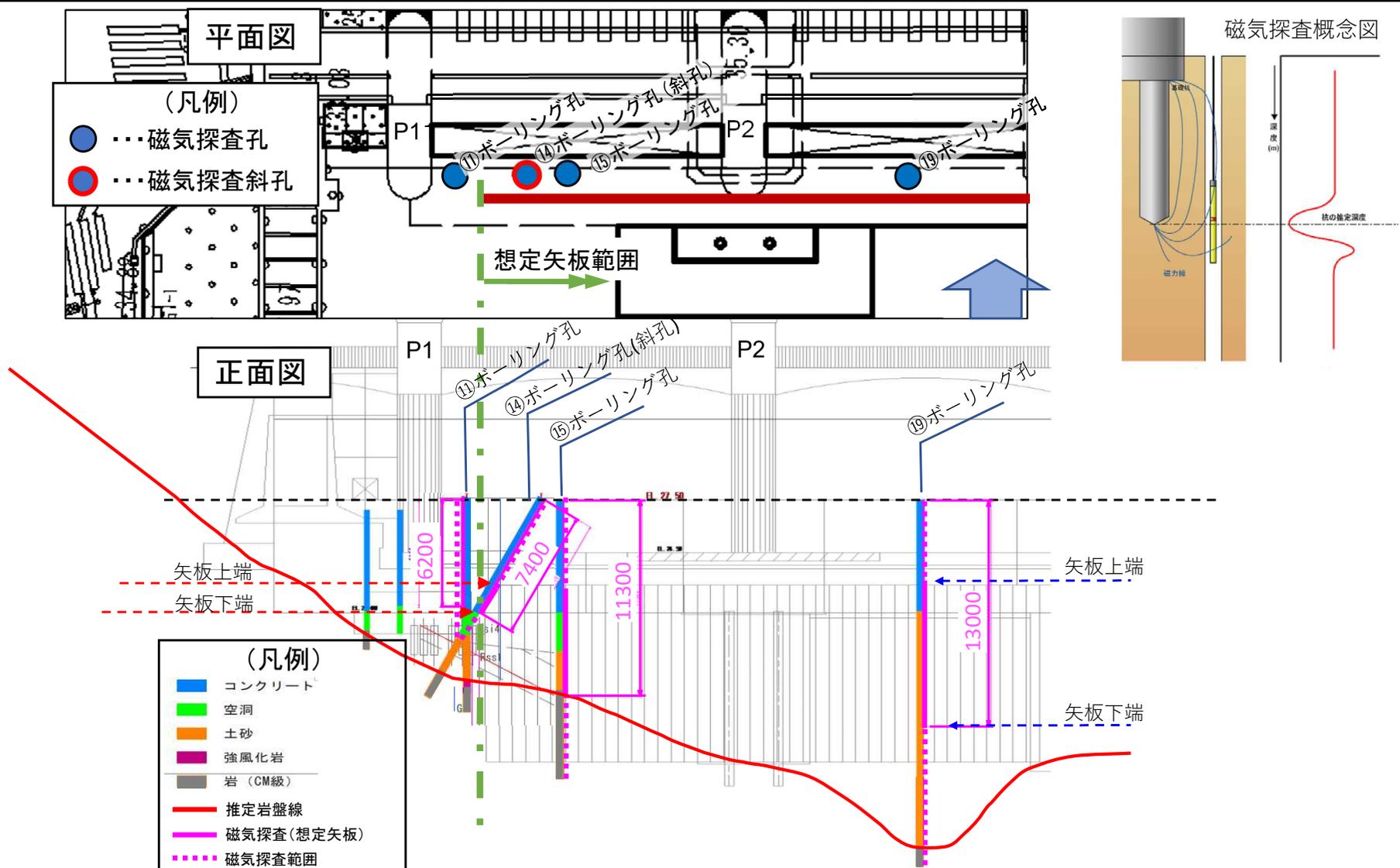


# 遮水矢板設置範囲図 《磁気探査調査結果》

○堰軸直下の遮水矢板の設置範囲及び深度を確認するため、ボーリング孔にて磁気探査を実施。

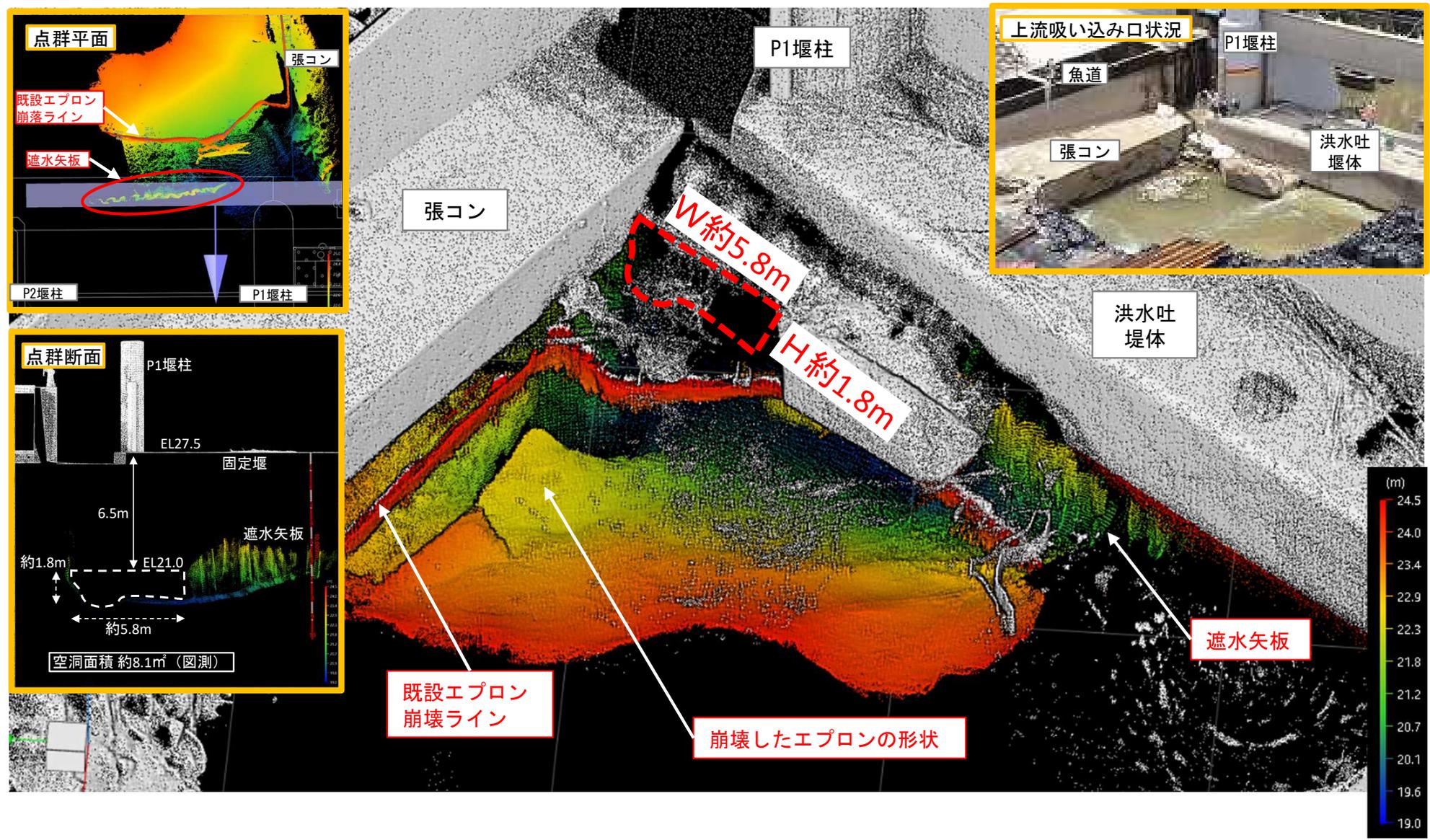
## 【結果】

- ・ No.⑭ボーリング孔（斜孔）で、遮水矢板の設置左岸端と思われる反応。
- ・ No.⑮ボーリング孔で、想定岩盤線付近で遮水矢板の反応。
- ・ No.⑲ボーリング孔で、想定される矢板下端位置に比べて2 m短い位置で矢板下端の反応。



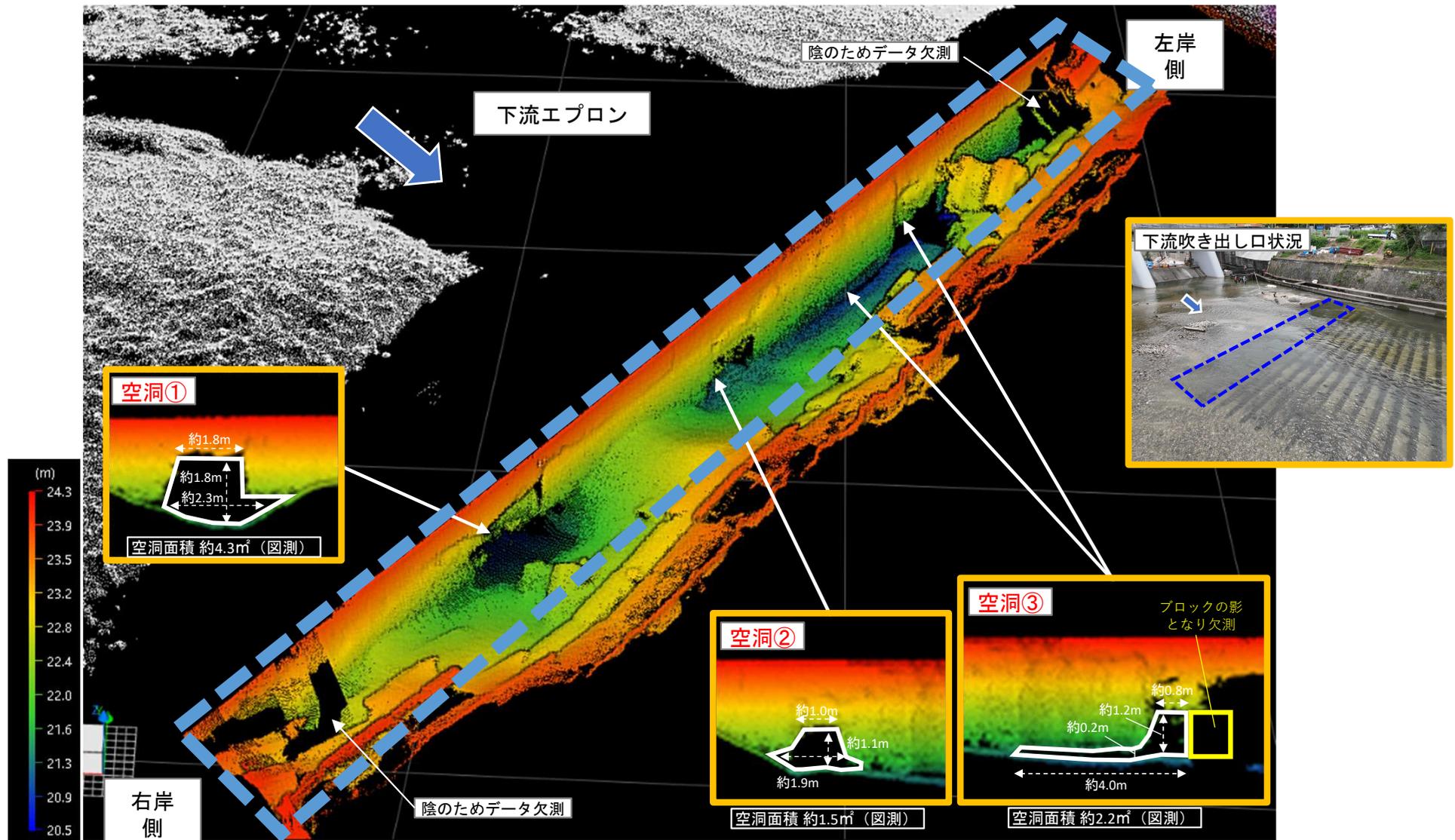
# 流入口形状図 《水中3Dスキャナ調査結果》

○上流吸い込み口周辺にて音響センサーにより流入口形状を計測。  
○流入口の形状は、W約5.8m×H約1.8m（空洞規模 A=8.1m<sup>2</sup>）。



# 流出口形状図 《水中3Dスキャナ調査結果》

- 下流吐き出し口周辺にて音響センサーにより流出口形状を計測。
- 下流エプロン下端部に3か所の空洞あり。



# 流入部水みち位置の確認《トレーサー試験調査結果》

○上流エプロン吸い込み口付近から色水を流し、流れ込む状況を確認。  
○色水はP1方向へ流れ込み、約11分後に下流の流出口からの流出を確認。

吸い込み口



流出箇所

